

福岡県医連発第15号F

平成18年8月21日

各支部代表者 殿



福岡県医師連盟

委員長 横倉 義武



緊急常任執行委員会の結果について

標題のことについて、来年夏の参議院選挙に自見庄三郎前衆議院議員が立候補されることとなり、日本医師連盟の推薦候補の問題もあることから、本医師連盟は8月20日（日）に緊急の常任執行委員会を開催しました。

結果は、今回の自見氏の推薦申請について、地元の北九州医師連盟はもとより、福岡県医師連盟にも連絡・相談はあっておらず、本医師連盟としては6月の執行委員・支部代表者会議において武見敬三現参議院議員の推薦を正式に決定しているので、福岡県医師連盟として一致団結して武見敬三氏を応援することが確認されました。

つきましては、別紙のとおり全国の日本医師連盟執行委員宛に文書を送付いたしましたので取り急ぎご報告申し上げます。

平成 18 年 8 月 20 日

各日本医師連盟執行委員 殿

福岡県医師連盟

委員長 横 倉 義 武

謹啓

残暑お見舞い申し上げます。

さて、来年 7 月に実施の参議院議員選挙における日本医師連盟推薦候補者の公募が行われました。私ども福岡県医師連盟は武見敬三現参議院議員が最適任と考え執行委員・支部代表者会議において推薦をすでに決定しています。

福岡県医師会員であります自見庄三郎前衆議院議員は、推薦母体である北九州市医師連盟及び、福岡県医師連盟に何の連絡もなく、公募締切日になり突然立候補の届出を提出しました。

福岡県医師連盟は緊急の常任執行委員会を開催し、自見庄三郎氏の支援は行わないと決定いたしました。

福岡県医師連盟は一致団結して武見敬三現参議院議員を応援いたしますので、御通知申し上げます。

謹 白

2006年(平成18年) 8月21日月曜日

メディファクス

4987号

■ 日医連候補に自見氏が名乗り

次期参院選、山梨が推薦

来年夏の参院選に向け、日本医師連盟(唐澤祥人委員長)が18日まで公募していた推薦候補に、現職で3選を目指す武見敬三氏(自民党)とともに、前衆院議員で元郵政相の自見庄三郎氏が名乗りを上げた。自見氏は衆院から参院へのくら替えを目指す格好となり、突然の“出馬”の動きに地元医師連盟や日医連内からは戸惑いの声も上がっている。日医連は、22日の執行委員会などで候補者を一本化するかどうかも含めて協議する。

医師である自見氏は、橋本内閣で郵政相を歴任するなど衆院(福岡10区)で7期の当選を重ねた医系議員のベテラン。しかし、小泉純一郎首相が掲げる郵政民営化に反対し、昨秋の衆院選に無所属で出馬して落選した。次期衆院選を待たず参院での国政復帰を目指し、同日までにマニフェスト(選挙公約)と山梨県医師連盟の推薦状などを添え、日医連の推薦候補に応募した。

自見氏は本紙の取材に対し、公募に応じた理由を「日本医師連盟の推薦する国会議員は医師であるべきだ」などと強調。さらに診療報酬のマイナス改定など、医療費抑制の流れを危ぶみ、「こうした流れを変えられるのは、閣僚経験と22年の国会議員の経験がある私しかない」などとアピールしている。日医連が参院選推薦候補者を公募していることを知り、8月に入って決断したという。

● 地元医師連盟は武見氏推薦

一方、地元の福岡県医師連盟はこれまでに武見氏を推薦する方針を決めている。同県医連関係者は、今回の自見氏の動きについて「事前に相談はなかった」と困惑気味で、17日の役員会で武見氏の推薦は変更しない方針をあらためて確認している。これに対し、自見氏は「国会議員は国民の代表。どの医師連盟から推薦を受けようと全国民のための仕事をする」と述べている。

来夏の参院選の対応については、4月の日医会長選の激戦が尾を引き、敗れた候補者を推した近畿6府県の医師連盟が、当選した唐澤会長を支持した武見氏の推薦に猛反発。このため日医連は、協議による武見氏の推薦一本化は難しいと判断し、公募によって候補者を選ぶことを決めていた。近畿地方の医師連盟は、21日にも自見氏について対応を協議する見通し。

武見氏は、地元の東京都や九州地方を中心に、関東甲信越や東北地方の一部からも推薦を取り付けているが、まだ態度を明確にしていない医連も少なくない。日医連はこれまで、あくまで武見氏で推薦候補を一本化することを想定していたが、長く日医連の推薦議員だった自見氏の名乗りによって「先が読めず、どうなるか分からない状況」(日医連幹部)。22日の執行委員会は波乱含みの展開となる可能性もある。

ただ、現在の日医執行部は自民党との関係強化を打ち出しているが、自見氏が9月に誕生する党の新執行部から公認をもらえる可能性は「未知数」との意見もある。